

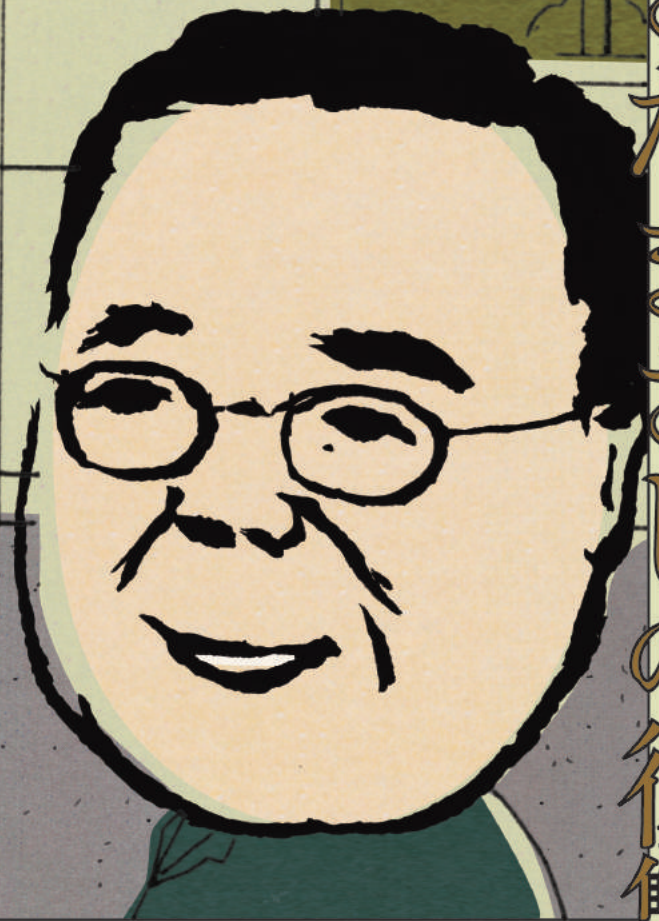
学長と話そう
コンサート



ようこそ
東京藝大へ！

和樹の部屋

第一回 さだまさしの復讐言劇



かつて東京藝大を一度志したさだが、長き時を経てくぐるその門。
SAWA と SADA、似て非なる唯一無二の二人が語り奏でる、音楽、芸術、教育、時代、ヴァイオリン。

2019.11.4 (月・祝) 15:00 開演 14:15 開場

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内] 客人：さだまさし 主人：澤和樹

プロデュース・MC：簡内道彦 パイプオルガン演奏：廣江理枝

演目：「精霊流し」「北の国から」ほか with 和樹の部屋アンサンブル 主催：東京藝術大学 制作：東京藝術大学演奏芸術センター

問合せ先：東京藝術大学総務課総務・広報係 TEL：050-5525-2026

チケット取扱：10月9日(水)発売 / 料金：9,000円(税込)(全席指定)

◆ヴォートル・チケットセンター TEL：03-5355-1280 ◆チケットぴあ《Pコード：164-805》TEL：0570-02-9999

◆東京文化会館チケットサービス TEL：03-5685-0650 ◆藝大アートプラザ(店頭販売のみ) TEL：050-5525-2102

◆イープラス(e+) <https://eplus.jp/> / 注意事項：敷地内禁煙となります。就学前のお子様のご同伴・入場はできませんのであらかじめご了承ください。

和樹の部屋 HP

<https://www.geidai.ac.jp/information/measure/kazukiroom>



comment

この度、東京藝術大学が誇る奏楽堂を舞台に、さまざまなゲストをお迎えする「学長と話そうコンサート～和樹の部屋」をスタートすることにいたしました。記念すべき第1回目のゲストは、さだまさしさん。中学生頃までは、藝大の附属高校を目指していたヴァイオリン少年で、私自身も田舎から東京までレッスンに通った名教師、鷺見三郎先生の同門という間柄です。私が藝大に入学した年に「グレープ」としてデビューされた時のさださんの美しいヴァイオリンの音色は、今でも鮮明に思い出すことができます。今回の舞台となる奏楽堂は、1,100席の座席を有し、壮大なパイプオルガンを備えた本格的なコンサートホールです。1998年に建設されて以来、学生や教員の教育研究成果の発表の場としてだけでなく、開かれた藝大の象徴として大学美術館とともに一般の皆さまにも質の高い音楽や芸術に親しんでいただく貴重な文化施設となっています。今後もこの大切な奏楽堂や大学美術館を何十年にもわたって藝大の伝統として次世代に継承して行かねばなりません。一方で、奏楽堂や美術館が建設された当時から20年余りで、国立大学等への施設整備予算は激減しており、立派な施設ゆえにかかる保守管理等の負担についても、大きく大学の財政にのしかかっています。

今回、さださんと所属事務所の格別のご理解とご配慮により、このコンサートの収益を奏楽堂や大学美術館の保守管理等の経費に充てることに賛同していただきました。さださんとのご縁を繋いでくださった箭内道彦先生を交えての三つ巴トークバトル、さだVSさわのヴァイオリン一騎打ち(?)、廣江理枝先生のオルガンや藝大生によるアンサンブルとの共演など、超レアなイベントにご期待ください!

東京藝術大学長 澤和樹

まさか藝大で、まさか澤先生と。人生にはまさかがつきものですがやれ嬉しや恐ろしや。いかが相成りますことやら。ワクワクドキドキの毎日であります

さだまさし

profile



澤和樹
(ヴァイオリニスト)

1955年、和歌山市生まれ。'79年、東京藝術大学大学院音楽研究科修了。ロン＝ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞など、ヴァイオリニストとして国際的に活躍。'90年、澤クワルテット結成。'96年、指揮活動開始。2004年、和歌山県文化賞受賞。'15年、英国立音楽院名誉教授。副学長、音楽学部長を経て、'16年4月より東京藝術大学長。



さだまさし
(シンガー・ソングライター、小説家)

1952年生まれ、長崎県出身。73年にフォークデュオ「グレープ」を結成、76年にはソロシンガーとして活動開始。2019年5月15日セルフカバーアルバム「新自分風土記」2タイトル同時発売、又、昨年11月20日に行われた「45周年記念コンサートツアー 2018Reborn～生まれたてのさだまさし～」ライブ映像作品3形態が6月26日に発売された。現在全国コンサートツアー中。



箭内道彦
(クリエイティブディレクター)

1964年、福島県郡山市出身。東京藝術大学美術学部デザイン科卒。博報堂を経て、「風とロック」設立。主な仕事に、タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」、リクルート「ゼクシィ」、FUJIFILM「PHOTOIS」、サントリー「ほろよい」、グリコ「ビスコ」など。福島県クリエイティブディレクター。2011年NHK紅白歌合戦に出場した猪苗代湖のギタリストでもある。現在、東京藝術大学美術学部デザイン科教授であり、学長特別補佐(広報・ブランディング戦略担当)を務める。

encounter

8月某日、二人が初対面となった学長室、箭内道彦教授を交えた打ち合わせの様子を収録した。

箭内 さださんとは、もろもろ基礎情報は共有できていると思いますが、11月4日で、奏楽堂でやるとか。

さだ そうね。僕がヴァイオリン弾かないとかね。

箭内 はい。しっかり伝えてあります。まだ、学長は粘っています(笑)。

さだ (笑)。

さだ 学長とのセッションは「精霊流し」かな。やっぱり。学長に弾いていただくのは、すごいな。あの曲。そうそうたる人に弾いてもらっているから。そして今回、澤先生に。大変なことですよ。

澤 グレープでデビューされた頃の画面は今でもはっきり覚えています。

さだ ええー。いやあ、恐ろしい。

澤 ものすごい綺麗なヴァイオリンの音だなあと感じておりました。

さだ お恥ずかしい。

澤 「精霊流し」も好きですし。「北の国から」も好きですし。

箭内 コンサートの最後に学長が「北の国から」を弾いて、さださんを送り出すというのもいいかなと思って。

さだ おお! カッコいい。

箭内 さださんと澤学長にはいろいろな共通点がありますよね。

澤 さださんも鷺見三郎先生(澤学長の師。ヴァイオリン指導者)に習われていたのですか?

さだ ええ。僕は小学校1年生の時から夏休みごとに通って、全日本学生音楽コンクール(九州・山口地区)で賞をもらって、中学から東京に出てきたのですが。家計がちょっと。桐朋には通えないと思って。

澤 それも一緒。僕の場合は、中学から東京に出てきたかったけど。家計の余裕がなくてできなかった。

さだ よかったですね。出てくるとこんな風になってしまいます。その後、藝大の講師の先生についていたんですけど。高校の半ばに音楽学校を諦

めました。その諦めたっていう部分が、ちょっと悔しいかなとも思います。でも才能なかったんで諦めてよかったのかなと。

箭内 そこが、復讐劇っていうところで。

さだ そうね。復讐ね。

箭内 当日は、こんなお話から盛り上がっていくと思います。

澤 最初のイントロ部分ですが、奏楽堂は、素晴らしいとても大きなパイプオルガンがあります。パイプオルガン伴奏で私が出てきてゲストをお迎えする。そんなイントロでいいですかね。

さだ いいじゃないですか。

箭内 ぜひそうしましょう。

澤 パイプオルガンとさださんとが共演するのはどうでしょうか。せっかく奏楽堂にパイプオルガンがありますので。

さだ 最新のアルバムで「精霊流し」をパイプオルガンと合わせています。「精霊流し」はヴァイオリンを弾いてなくて、聖歌隊のコーラスがついています。それは長崎の浦上天主堂で収録したんです。今回、メロディーは澤先生に弾いていただき、伴奏をパイプオルガンでやるというのは、可能性ありますね。ある程度、ここで決めてしまった方が。間が空いてしまうので、次はリハーサルになりますし。

さだ 「精霊流し」はパイプオルガンベースで、ヴァイオリンは澤先生に弾いて頂く。

さだ 箭内君が総司会してくれるんだよね。僕と澤先生を上手につないでくれると。

箭内 それはやります。これはお二人にうかがいたいという話を入れていきますので。

さだ 澤先生ありがとうございます。楽しみにしています。今後ともよろしく願います。こういうことがない入れなかったところ。ついに藝大に裏から入ってきました(笑)。

箭内 そうだ、正門は工事中だから裏から入ってきたんだ(笑)。

MAP



〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
上野駅・日暮里駅から徒歩10分